

研究課題名	2017-006 第5中手骨骨折術後MP関節可動域制限の要因について
実施責任者	名古屋掖済会病院 リハビリテーション部 作業療法士 加藤雅大
研究の概要	<p>第5中手骨骨折は関節可動域制限が残りやすいとされていますが、どのような要因が可動域制限の要因になるか知られていません。</p> <p>当院電子カルテシステムより情報を収集して動域制限の要因について検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	<p>2011年 1月 1日 より</p> <p>2017年 2月28日 まで</p>
研究対象	<p>上記の期間に当院整形外科で手指第5中手骨骨折と診断して骨接合術を行い、4週間以上経過を観察できた患者様を対象とします。</p>